2019年度卒業・修了予定者アンケート

Ⅰ.分析と提言

３．学府修了時アンケート（産業マネジメント専攻）

①基礎データ
36 通（前年比 5 通増）の回答を得られた。
【二年間の総合評価について】
<教育内容>
　本専攻が提供した教育内容について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 86%であり、全体として高い満足度を示していることがわかる。
<カリキュラム体系>
　本専攻が提供しているカリキュラム体系について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 78%であり、高い満足度を示していることがわかる。
<教育方法>
　本専攻の教育方法について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、83%であり、高い満足度を示していることがわかる。
<授業環境(設備等ハード面)>
　本専攻の設備等ハード面について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、78%であり、高い満足度を示していることを示している。
<授業環境(運営等ソフト面)>
　本専攻の運営面等ソフト面について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、71% であったが、教員の指導について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、81%であり、高い満足度を示している。
<総合評価>
　本専攻に在学した 2 年間の総合評価について高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は、86%であり、高い満足度が示されている。感想としても、「大変に満足した。多くの人の意見で気づきがあった」、「様々な分野での授業が選択でき多くの気づきをいただいた」、「仕事では得られない多くの知識を習得することができた」などが示された。

【プロジェクト演習の評価について】
<内容・方法・プロセス>
　当項目について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 78%であり、高い満足度を示している。
<結果の出来映え(学生の判断)>
　プロジェクト演習活動の結果の出来栄えについて、自身で高い満足度(5 及び 4 評価の合計)と評価した学生は 69%であり、ある程度満足はしているものの、もっと良いものにできたと思っている学生も少なくないことを示している。
<努力したか(学生の判断)>

学生自身の努力度合いについて、高いレベル(5 及び 4 評価の合計)を認識した学生は 81%であり、総じて努力している姿勢がうかがえる。

<教員の指導内容、的確性、円滑性>

当項目について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 75%であり、満足度の高さを表明している。

<教員による対応の綿密性、丁寧さ>

当項目について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 81%であり、高い満足度が表明された。

<論文審査発表会のありかた>

当項目について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 72%であった。不満足と答えた学生はおらず、総じて満足していることが示された。

<総合評価>

当項目について、高い満足度(5 及び 4 評価の合計)を示した学生は 72%であった。「年間を通した取組で大変良い経験でした」、「教員の指導がきめ細やかだったので満足している」などの肯定的な意見が出されている。

②集計結果の概観

【二年間の総合評価について】

多くの学生が二年間の当専攻での「教育内容」には高い満足度を示しているという結果が出ており、それ自体は関係者の努力の賜物であると考えられる。なお、修了時アンケートには、個々の授業名が示されていないこともあるが、個別の授業や個々の教育カテゴリーについて「前期・後期の FD アンケート」なども加味しながら改善努力を怠らないように心がける必要があると考えられる。また、運営などソフト面などについても、学生との対話を通じた改善努力の維持がもとめられよう。

【プロジェクト演習】

プロジェクト演習についても高い満足度を示している学生が多いが、結果の出来映えについての学生自身の評価や、伊都キャンパスへの移転後日程や傍聴者の面で環境が大きく変わったと思われる論文審査会に対する評価などの面では、検討する余地が示されている。引き続き学生の状況把握や要望聴取を行いながら、プロジェクト演習制度の改善努力を怠らない姿勢が必要と思われる。